

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:1月】

平成24年1月13日(総12第02号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

(1)年末年始にかけての治安情勢は平穏に推移した。なお、1月4日、東ジャカルタ地裁において、2002年のバリ島爆弾テロ事件などに関与したとされるウマール・パテック容疑者の妻(比人)に対して、公文書偽造の罪により禁固2年3月の判決が言い渡された。

2 一般情勢

- (1)バリ州保健局によれば、バリ島で犬に噛まれる事案は依然として多発。2011年12月5日までの統計で50,628件(2010年は67,021件)。狂犬病による死者は2008年以降137名(2008年:4名、2009年:28名、2010年:82名、2011年23名)。
- (2)2011年のングライ空港を使用した旅客数は前年に比較して14%増加し、12,673,092人となった(国内線6,510,312人、国際線6,162,780人)。
- (3)最近の大雨・強風の影響により、バリ島各地で道路の冠水、倒木により道路通行止めのケースが増加。特に、山間部を運転する場合には、交通事故防止に努め、倒木により電線が切れて垂れ下がっている場合には絶対にさわらないようにして下さい。

3 邦人事故・事件関連

(1)1月上旬、邦人が運転する車が歩行者に接触の後、駐車中の車に衝突する事故が発生。自分で運転することは極力避けることをお勧めします。なお、本事故との関連はありませんが、飲酒運転は当地でも違法ですので、絶対に飲酒運転は避けて下さい。

(2)スリ被害

年末年始にタナロット、レギャン、ヌサ・ドゥアにおいて、邦人旅行者がスリの被害に遭う事案が発生。体を強く押されたその際に発生する乱暴な事案もあった由。貴重品や旅券はなるべく持ち歩かず、保管場所も複数にする等の対策が必要です。

(3)振り込め詐欺

警察官を名乗る者から電話があり、子どもが無免許運転で事故を起こし、所持品を検査したところ麻薬が発見されたとして、示談のための送金を指示されたケースあり。このほか、学校関係者を名乗り、子どもが怪我をしたので治療費が必要、外国にいる家族の事故等を名目にしたもの等の手口。

被害を防ぐには、事件に巻き込まれたとされる家族へ自ら確認すること、犯人は被害者の名前等の個人情報を知らずに電話を掛けていることが多く、子どもの名前や学校名等をこちらから犯人に教えず、先方に「担任教師の名前は誰ですか？」等の質問を試みるのも有効な手段。

このほか、インターネット上で知り合った人物から、謝礼を払うので現金受け取りの代理人になって欲しい等の依頼を受け、事前の手数料などの名目で送金を要求する手口もあり。マネーロンダリングは違法行為であり、知らない人物からの甘い誘いは相手にしないことが、一番の被害防止策です。

(4)薬物・麻薬に対する注意

昨年中は、4人の邦人がバリ島において薬物により逮捕。日本人は被逮捕者の国籍別で上位となっており、薬物犯罪にはくれぐれも関わらないような注意が必要です。薬物に対する警察の取り締まりも厳しくなっています。

以上